

実践課題 ①差別の現実深く学び、人権問題を自らの課題として取り組もう。 ②人権教育実践を通して、人権を大切にしようの生き方を育てよう。 ③子どもたちの「今」を大切に、豊かな「未来」を保障しよう。 ④人権教育を推進するなかまづくりをすすめよう。	市人教ニュース  発行 奈良市人権教育研究会事務局 文責 松山明弘	2017年10月16日(月) NO.3(通算453号) 奈良市人権教育研究会事務局 TEL 0742-55-2524 FAX 0742-55-8239 市人教ウェブサイト http://www.sidokyo.com E-mail jimukyoku@sidokyo.com
--	--	--

☆第46回奈良市人権教育研究大会☆
報告概要を読んで参加する分散会を決めよう！！
今年度は、5分科会15分散会で研究大会を行います。
それぞれの分散会で、各校園や個人の実践を出し合って、研究大会を盛り上げましょう！
・日時：2018年1月24日(水) 14:30(受付) 14:45～16:45(分科会)
・場所：左京小学校、朱雀小学校、佐保台小学校、平城東中学校、東人権文化センター、リガール春日野、はぐくみセンター

☆会場は、参加集約後決定します。
 ☆各校で参加集約し、10月31日(火)までに市人教事務局までお知らせください。(締切厳守)

分科会	分散会番号	報告概要
「教育内容の創造と学習活動」 第一分科会	①	一人一人が安定した就学をめざして～幼小をつなぐ～ 鳥見幼稚園 奈良市唯一の小学校併設園です。子どもたちは、チャイムの音や授業の様子を間近で見聞きしています。小学校生活へ不安を抱いている子どもたちが、小学生との交流を通して、期待と憧れをもてるように幼小連携を行っています。また、日々の園生活の中で体力が低く、活動への持続力が弱い子どもたちへできることはないかと考え、体幹づくりに取り組んでいます。併設園の特色を活かした幼小連携や就学に向けての園での実践を報告します。
		「強く・かしこく・かっこよく」 伏見南小学校 高学年の取り組みを、下級生に広げよう！ 4年前の報告にある取り組み「憧れられる高学年を目指して」がさらに根つき、本校のよき校風となりつつある。中学年や低学年でもリーダーシップを取って、下級生の手本になろうとがんばる姿が見られるようになってきた。あいさつ運動、保幼小や異学年の交流などを通し、自己有用感を高め自尊感情を育てていく取り組みを報告したい。
	②	帯解キラキラ大作戦 帯解小学校 ～なかまとつながり主体的に行動できる児童をめざして～ 与えられた課題には一生懸命に取り組む自分たちで考えて活動することが苦手な子どもたち。自信をもって主体的に行動できる児童をめざして、全職員が情報を共有し連携して取組を進めています。自己有用感を育てるために、全校で、各学年で、他学年と合同で挑戦できる場を設定し、互いのよさや個性を認め合う取組を行ってきました。各学年の児童の変化については、2年生の取組を中心に報告したいと思います。
		いじめの授業を通して感じたこと 興東館柳生中学校 本校は、全校生徒49名の小規模校であり、それゆえに、恵まれていることがあります。その一つにタブレットを一人一台ずつ活用することができます。そのタブレットを利用して、いじめ防止教育の校内研修や道徳の授業で、一歩前進した取り組みができ、実際に授業で展開したことについて、報告させていただきます。
	③	楽しくつけよう からだ力 右京保育園 近年、子どもたちを取り巻く環境が変化し、それに伴い子どもたちの姿も変化し始めました。保育園でも、身体のバランスや我慢する力、集中力の低下などの姿が見られるようになり、気になる様子などを職員間で出し合いました。そしてすべての基礎は「体幹」と関係していることを知り、0歳児から体幹を育てる保育を大切にしようとして取り組んできました。そんな取り組みの中から、2歳児の取り組みについて報告します。
		言葉から心へ・行動へ 左京小学校 ～人権標語を中心として～ 「人権標語」「ふわふわ言葉」の取組を続けてきた左京小学校ですが、子どもたちの自尊感情の低さや自己有用感の低さがなかなか改善されず、なかまとのつながりの浅さの課題もありました。やさしい言葉を実際の子どものたちの日常の姿(心や行動)につなげるためにはどうすればいいか。子どもたちのエネルギーを前向きな方向に向かわせ、なかまとして高まっていくにはどんな手立てをすればいいか。左京小学校で考え、取り組んできたことについて報告します。
	④	「ありがとういっぱい三碓小学校に。」 三碓小学校 ～フットワーク ネットワーク チームワークの3ワークで！～ 全校の取り組みとして「いのちの学習」を始めて、3年目に入りました。毎月11日(人権を確かめ合う日)～17日(子ども安全の日)を含む週に、全校で「いのち」について考える時間を設けてきました。様々な分掌や学年で各回を担当し話題を提供した後、各学級・学年で深めるという活動です。2年目にあたる昨年度からは、「ありがとういっぱい三碓小学校に。」と題して取り組むなかで、活動内容や学校全体の連携の在り方を模索してきた様子を報告します。
		子どもたち同士がつながりあう学校・学級づくり 帝塚山小学校 ～個が生きるための実践～ 本校は、色々な地域の子どもたちが在籍する学校です。育った環境も違った子どもたちが学校に慣れ、友だちと共に生活を歩んでいかなければなりません。そのための個を活かし、互いにつながりあうための集団づくりの実践を報告させていただきます。

「教育内容の創造と学習活動」	⑤	地域とのつながり ～連続した子どもの育ちのために～ <p style="text-align: right;">柳生こども園</p> <p>柳生は文化財や美しい自然、昔から続いている伝統や文化がたくさん残った所です。地域の様々な人々との多様な交流を通して子ども達の成長を連続したものとなるように、地域の方・歴史・隣接した小学校との一連のつながりを大切にしています。様々な経験を通して地域への愛着や自尊感情、円滑な小学校への接続を願って5歳児の取り組みを中心に報告します。</p>
		ふるさと“つげ”を誇りに思う子の育成 <p style="text-align: right;">都祁中学校</p> <p>本校は、学校と保護者、地域の方々とともに知恵を出し合い、協働して学校運営を行う「地域とともにある学校」づくりを目指しています。地域の方々から支援をいただき、子どもたちはたくさんの大人に見守られながら育っています。また、子どもたちが様々な地域のボランティアに参加することで、自己有用感も高まってきました。地域で育つ子どもたちに、自分たちのルーツであるふるさと“つげ”を誇りに思う気持ちを養う取り組みについて発表したいと思います。</p>
第二分科会 「授業改革」 「学力」	⑥	みんなでスキルアップ・パワーアップ・ステップアップ <p style="text-align: right;">興東小学校</p> <p>「わかりたい」「成長したい」という気持ちは児童ひとりひとりが持つ願いです。学力の向上には、学習面だけではなく、生活習慣や体力面も含めた働きかけが必要であると考え、取り組みをすすめてきました。ひとりひとりの確かな学力の向上を願い、学校全体で取り組んできたことを中心に報告します。</p>
		キャリア教育を通しての生きる力の育成 <p style="text-align: right;">三笠中学校</p> <p>本校は平成24年度、奈良市教育委員会よりコミュニティ・スクールに指定され、その3年後からキャリア教育の取組を見直し、現在は、地域との協働と小中の連携を基盤に進めています。地域との協働の1つとして、職場体験学習では、生徒自ら事業所を開拓していくことを基本とし、保護者にも協力をお願いしました。また、職場体験前に研究テーマを設定し、探究活動につなげ、事後学習として、ポスターセッションを実施しています。キャリア教育の取組を通して生きる力の育成について、この3年間を振り返って報告します。</p>
第三分科会 「自立と共生をめざす集団づくり」	⑦	あこがれられる高学年をめざして <p style="text-align: right;">青和小学校</p> <p>本校の高学年は代々、「あこがれられる高学年」を合言葉に、下級生のお手本となる上級生を意識してきました。そのような高学年の姿は、全校での集会活動や様々な学校行事での場面はもちろん、日常の活動の中でも見られ、下級生はその姿をお手本にするので、どのように行動すればよいのかを学びます。今回は、そのような高学年を育てるために、教員はどのような支援をしているのか、児童の実態を交えながら報告いたします。</p>
		「私」の進む道 ～ ゲストティーチャー講座の紹介 ～ <p style="text-align: right;">平城西中学校</p> <p>本校では一昨年度より、3年生を対象に『進路を考える一日』と称して、ゲストティーチャー講座を開いている。午前中は、県立高等学校より講師先生を招いて、高等学校特色学科の体験授業を行っていただいた。午後からは、本校を卒業した高等学校3年生を招いて、卒業生の経験に基づいた話(高等学校と中学校の違い、中学校3年生の今、頑張っておかなくてはいけないことなど)をしてもらった。その様子を報告します。</p>
	⑧	「一人ひとりによりそって」 <p style="text-align: right;">佐保川小学校</p> <p>本校の児童の多くは、明るく元気に生活しているが、中には家庭事情や、生活習慣の乱れから、不登校になってしまう児童も見られる。また、発達に問題を抱える児童もおり、周囲と軋轢が生じ、教室に入りづらくなってしまいう場合もある。そういった児童が学校に来られるように、また授業に参加できるように、教員はそれぞれ心を砕いている。多数の取り組みの中から、今回は、学級から取り出している個別支援の事例と、通常学級内での支援の事例を紹介する。</p>
		よりよい人間関係の形成をめざして ～hyper-QUを利用して～ <p style="text-align: right;">京西中学校</p> <p>本校は校訓である「敬愛（お互いのよさを認め）、創造（新たな道をひらく）、自律（気づき、行動する）」を目指す生徒像に掲げ、教師自身も、自分のことばで想いを伝え、共感的な態度できめ細やかに生徒に関わっていけるように取り組んでいます。まだ取組は緒についたばかりですが、その一端を紹介させていただきます。</p>
⑨	いつでもどこでも鼓(き)北(た)っ交流 ～全校活動の充実と児童の変容～ <p style="text-align: right;">鼓阪北小学校</p> <p>目指すは、みんなが輝く夢いっぱい学校！ 6年間を同じメンバーで過ごす子どもたちは、お互いを兄弟のように信頼し合っているが、自分や友だちの可能性を積極的に引き出そうとする姿勢はあまり見られない。子どもたちのこれからの人生の礎になるであろう小学校生活において、自分に自信を持ち、前を向いて歩いていけるような、学級での取組や、「鼓北っ交流」として取り組んだ学年間交流を中心に報告します。</p>	
	「理解」から「行動」へ ～中高一貫6年の取り組み～ <p style="text-align: right;">奈良育英中学校</p> <p>誓願の「凡ての隣を敬愛し」に基づき、様々な人権問題に共通する「宗教、出自、性別等で差別しない心」や「他者の気持ちを思いやり、率先して手を差し伸べる心」を育むように努めています。 そのために、まず生徒たちの自尊感情(自己肯定感)を高め、安心できる関係や環境をつくることを大切に、多くの課題を「自分だったらどう思うか？」だけでなく、「自分ならどうするか?」「どのようにすれば解決に近づくことができるのか」を考える活動を報告します。</p>	
⑩	認め・喜び合う明治っ子 <p style="text-align: right;">明治幼稚園</p> <p>豊かな心を持ち、生き生きと活動する幼児の育成をめざし、遊びや日々の生活の中で、友達同士が支え合い、励まし合える環境作りに努めてきました。友達を思いやり、優しく接したりする気持ちを大切に、互いに認め合い、喜びあうことができるようになり取り組んでいます。一人一人の違いを認め、共に気づき、育ち合う仲間づくりをめざした保育実践を報告します。</p>	
	「おしゃれにいこう」から始まった 佐保小の取り組み <p style="text-align: right;">佐保小学校</p> <p>佐保小学校にはよく知られた言葉がある。「おしゃれ」である。朝夕に挨拶をする行動は「おしゃれ」である。返事をきちんとすることも「おしゃれ」である。 困っている人に寄り添い励ます行動もまた「おしゃれ」なのである。この言葉は、学校スローガンや運動会のスローガンの中にも盛り込まれ、子供たちに浸透していった。そして、次第にこの言葉について深く考えるようになっていった。</p>	

第三分科会 「自立と共生をめざす集団づくり」	<p>⑪ 支援を必要としている児童の理解と、共に認め合える学級集団づくり 富雄北小学校</p> <p>特別支援学級在籍の児童の理解を深めるために、交流学級担任と特別支援学級担任が連携をもち、日々取り組みや支援を行っている。その中で、自分の思いを伝えることが苦手と友だちとトラブルが起きてしまうAさんと、環境の変化や自分の感情を抑えることが苦手なBさんが、どのように集団の中で認められるようになっていったのかを実践を交えて報告します。</p>
	<p>⑫ 37(みんな)で友(とも)に 平城中学校 ～平城中学校37期生 日々の取り組みから～</p> <p>本年度入学した37期生は、特別支援学級の生徒達と普通学級の生徒達がお互いの個性を認め尊重し合える良い雰囲気です。学校生活を送っている。生徒達の意識として特別感のない、当たり前の「共生」が見られる。小学校から培われた姿勢をもつ生徒達と他小学校からの生徒達が、中学で1つの学年集団となり成長し続けている。全学年の教師で支援する態勢や福祉体験、特別支援学級理解、人権を考える朝読など、平城中学校の取り組みを報告する。</p>
	<p>⑬ 「一緒に遊びたいな」 登美ヶ丘幼稚園 ～幼小のつながりを意識して～</p> <p>以前から隣接する小学1年生との交流を行っている。計画的に進めていく中で小学校の様子がわかったり刺激をもらったり優しく接してもらったりし、憧れの気持ちが育まれている。フェンス越しに「一緒に遊びたいな。」と小学生の様子を見て発した子どもの一言から自然な形で交流の場をもてないかということになった。小学校の中休みの時間を利用して、子どもたちの「一緒に遊びたい」「やってみよう」という気持ちを引き出し、子どもが自ら身近な人やことにかかわろうとする姿につなげていきたいと考え、今年度第一歩を踏み出した。職員間の連携や子ども同士の交流の深まりをめざして取り組んでいる。</p>
<p>⑭ たてわり活動でつながる佐保台っ子 佐保台小学校 ～6年生を中心としたなかよし班活動を通して～</p> <p>佐保台小学校では、たてわり活動を中心としたなかまづくりを行っています。6年生が中心になって、たてわりのグループ(なかよし班)を率い、掃除や遠足などのさまざまな活動に取り組んでいます。その中で、学年を越えたつながりができ、お互いを認め合う関係ができてきています。さまざまな活動を通してつながっていく子どもたちの様子を報告します。</p>	
健康とくらし 第四分科会	<p>⑮ 思いやり、助け合いの気持ちを育てる 伏見幼稚園 ～蚕の飼育を通して～</p> <p>伏見幼稚園は、親しみをもち相手を大切に思う気持ちや心が豊かに育つ経験を積み重ねられるよう日々取り組んでいます。地域の方に黄繭を見せてもらい、生体に興味を持った幼児は、蚕の飼育から蚕の一生と命のサイクルを経験し、昆虫や周囲の植物から命を引き継ぎ、生活の知恵を活かして生きているということを幼児なりに知りました。蚕の飼育を通して友達と気付きや思いを共有し、互いに助け合い、思いやりの気持ちを持って園生活を送っている幼児の様子を報告します。</p>
	<p>⑯ まわりの人を笑顔にしよう 済美小学校 ～一人一人を大切に活動を通して～</p> <p>済美小学校では、「まわりの人を笑顔(幸せ)にしよう」という重点目標のもと、学校全体で様々な人権教育の取組を実践しています。人権集会やビデオ放送による「人権を確かめ合う日」、自分のがんばりや友だちへの感謝等を伝える「ハッピー & ベスト」、教員同士が実践を交流し合う職員研修等、いのちを尊重することや一人一人を大切に活動を通して、まわりの人を笑顔にするために取り組んできたことを報告します。</p>
啓発・白書 第五分科会	<p>⑰ 力つけようの日 朱雀保育園</p> <p>子ども達と日々過ごす中で、すぐにこける子や、姿勢保持しにくい子など、体幹の弱い子どもが増えてきていることに気付きました。職員間で話し合い、昨年度より「力つけようの日」を作り、リトミック遊びや感覚統合遊びを取り入れ実践しています。乳児からの遊びを通して培う力と幼児の力つけようの日の取り組み、また来年度より統合する幼稚園との交流について報告します。</p>
	<p>⑱ 「男女」共生教育の取組 六条小学校 ～運動会 男女混合で走ろう!～</p> <p>六条小学校では、子ども達がお互いを認め合い力を合わせて生活でき、「男女」にとらわれることなく活動できるようにと、全校朝の会の並び方の工夫、児童全員「さん」付けでの呼称、運動会の男女混合での個人走などを行ってきました。本校の「男女」共生とは、まずお互いをよく知ることから始めるべきであると考え、運動会の個人走を男女別から全学年男女混合にした経緯を中心に報告します。</p>
	<p>⑲ 「人権を確かめ合う日」の取り組みについて 二名小学校</p> <p>毎月11日の「人権を確かめ合う日」に、二名小学校では全校で各月のテーマに沿った内容のオリジナルビデオを視聴し、振り返りカードに気づきや思いを記入しています。ビデオの作成は月ごとに人権部や各学年で担当し、児童が出演することもあります。毎月、学校全体で人権について考え、自分たちの生活を見直し、人権意識を高めていけるように工夫して取り組んでいます。</p>
	<p>⑳ 肅々と発信を続けています。 奈良市人権教育推進協議会事務局</p> <p>昨年度から、市人推協は総会議案書と共に、「人権ガイドブック」を参加者全員に配布しています。このガイドブックは、今までの人権確立のあゆみを振り返りつつ、新しい人権課題についての資料を豊富に盛り込んだものです。人推協広報誌の『窓』も多くの方々のご協力のもとに、昨年度から年間3回発行しています。こうした取組を中心に報告します。</p>